



小机小学校のホームページは右記のQRコードでご覧になれます。



新春を寿ぐ ～ 不易流行 ～

校長 遠藤 淳子



令和7年が始まりました。新たな夢や希望が湧いてきます。今年の干支は、「巳」。巳年の意味を調べると、「新しい挑戦や変化への前向きな姿勢の象徴」とあります。子ども達には目標を立てると同時に、目標を実現するための行動目標までを立て、なりたい自分に向かっていってほしいと願います。

旧年中は、多くの場面において、学校教育へのご理解とご協力を賜りました。コロナ禍を経て、学校を取り巻く環境がなお一層、加速度的に変化していく中で、学校教育に求められる「不易」と「流行」について、時に振り返り、時に未来を見据えて考える場面がありました。どのような時でも、保護者・地域の皆様からその都度、様々に温かなご支援をいただきましたことで、子ども達も教職員も安心して新たな道を模索しつつ、Try してることができました。ここに、改めて感謝申し上げます。

昨年12月21日(土)22日(日)にパシフィコ横浜では、「お城 EXPO2024」が行われました。横浜市歴史博物館の野口様、パシフィコ横浜経営推進部担当部長地域連携担当の大村様のご協力により、6年生が取り組んできた総合的な学習の成果物を会場に貼ることができました(学校だより紙面写真)。横浜美術大学の田崎准教授のご助言を得て、子ども達がデザイン・作成した2本の幟も立てられ、城まち会の木村様にも事前に見ていただきながら完成した缶バッジと缶磁石が販売されました。2万人を超える全国からの来場者のうち、小机城ブースに立ち止まってくださる多くの方の姿を目にして、続日本100名城である小机城を学区にもつ小学校として、全国区のイベントに参加することができたことを何より嬉しく思いました。現在、缶バッジと缶磁石販売に関するポスターは、保護者・地域の皆様のご協力により、商店会のいくつかのお店にも貼らせていただいております。

1月29日(水)に行われる港北区一斉授業研究会では、4月から学年で取り組んできた学習を、2年生、3年生、5年生が食育の授業として提案していきます。学習材として扱っているのは、冬野菜・レモン・オリーブですが、野菜や果実を育てる活動を通して、子ども達は季節を感じ、野菜や果実がもつ循環性や自然の不思議さについて体験を通して学び、それらを豊かな言語活動にも繋げています。

本校栄養教諭、オンラインで繋がる生口島：瀬戸田小学校の栄養士さん、小豆島：星城小学校の6年生の皆さんとの協働により、横浜初の試みとして、子ども達が考えた「横浜市×他県地域」コラボメニューが給食に取り入れられる可能性が高まっています。オリーブの葉からはオリーブティーが作れそうだと、横浜の和紅茶屋さんとの共同開発も始まりました。

4月以来、子ども達の思いに応えてくださる多くの専門家の力をお借りして、不易流行の学習展開が続いています。「教師の熱量と子どもの熱量で世の中を少し変えることができる」といつも職員には伝えていますが、小机小の子ども達の「城熱(じょうねつ)」が、大人を動かし、横浜の生活を変えていくことが現実味を帯びてきました。脱皮を繰り返す蛇のイメージから、「新たな自分に生まれ変わる、生命力や再生のシンボル」とも言われる巳年に相応しい年明けと感じています。

横浜は、穏やかな冬日の元日でしたが、能登半島地域の復興にはまだほど遠い報道を見聞きします。ここに心よりお見舞いを申し上げ、繋がりのある皆様方の平穏を祈ります。

今年も、保護者の皆様、地域の皆様の学校教育へのご理解とご協力を、どうぞよろしく願いいたします。

## 年間目標『あいさつをしよう』

(あ…明るく い…いつも さ…先に つ…続けよう)

今月の目標 《生活》 気持ちのよい態度や言葉でござよう

1月

《保健》 冬を健康にござよう

《給食》 感謝の気持ちをもって食事をしよう

